

大地震が発生したらまず自分の身を守る

2016年2月24日発行

揺れが収まったら真っ先に火の始末で火災防止

柳谷戸支隊 情報・広報班

防災に関するアンケート結果について

先般行いました防災に関するアンケート調査にご協力頂き有難うございました。
調査結果は下記の通りご報告します。

記

- 1) 対象隊員数（世帯）：294、 回答隊員数：158（53.7%） *（前回58.6%）
- 2) 調査期間 2016年1月20日～31日

	質問項目	回答結果	備 考	前回2014年度
1 家の耐震	家屋の耐震対策（対象外）	39.9%	昭和56年の新基準適用で対策済	45.5%
	木造家屋 対策済	9.5%	旧基準で建築（未対策：32.9%）	（今回とは設問方法が異なる）
	その他の家屋 対策済	8.2%	旧基準で建築（未対策：5.7%）	
2 家具対策	全家具の転倒対策 済	17.7%		65.9%
	一部実施	61.4%	対策の度合いに差が大きい	（同上）
	未対策	19.6%		
3	消火器 あり	73.4%	内1個：58%、2個：23%、3個：5%	72.2%
4	火災警報器 あり	74.7%	内1個：30%、2個：20%、3個以上：42%	72.8%
5	感震ブレーカー あり	17.7%	検討中、斡旋あれば検討する：なしの69%が回答	15.0%
6	雨水タンクの設置 あり	7.6%	200L以上：1、100L：3、50L：6	11.0%
7 飲用水	3日分未満の備蓄	29.7%		20.8%
	3日分程度	41.1%		45.1%
	7日以上	24.7%		32.4%
	なし	4.4%		記載無 1.2%
8 生活用水	100L未満の備蓄	40.5%	前回の質問 と結果	3日分未満 53.8%
	100～200L	3.2%		3日分程度 25.4%
	200L以上	3.2%		7日以上 8.1%
	なし	51.9%	記載無し 12.7%	
9	風呂水の溜め置きしている	69.6%	していない 30.4%	—
10 食料品	3日分未満の備蓄	33.5%		26.0%
	3日分程度	43.0%		42.8%
	7日以上	21.5%		26.6%
11	カセットコンロ（ボンベ） あり	77.8%	1～2本：20%、3～4本：36%、5本以上：35%	78.0%
12	簡易トイレ（含処理袋）あり	49.4%	なし 50.0%	35.8%
13	緊急持ち出しセット あり	77.2%		69.9%
14	救急用品の予備電池 あり	86.1%		80.9%
15	非常用備蓄品の更新 実施	57.0%	更新せず40%	60.1%

以上の様な結果となりました。

1. 各項目の所見

項目1 家屋の耐震対策について：旧基準、新基準や建築様式別等の内容もはっきりしてきた。

項目2 家具の転倒防止対策について：一部実施の世帯の中で、全家具の50%以下の家具に対策実施と回答された方は40%ありました。50%以上、80%以上に対策済が夫々14%でした。

阪神淡路大震災では死亡された人の8割以上が上記1) 2) の倒壊転倒であったと云われています。

項目4 火災警報器の設置について：火災発生時には出火から4分30秒～5分以内が初期消火の可能な時間であるとされており、1分1秒を争う重要な時間帯となります（総務省関連研究所シミュレーションによる）。如何に早く出火を知ることが決め手であり、火災検知器の設置数・設置場所が重要です。

回答では、設置1個 x 30%、2個 x 20%ありました。

家の構造にもよりますが、各家庭で設置数・設置場所を再検討してみてください。

項目5 感震ブレーカーについて：この器具は大地震が発生し、ある一定の揺れを感知した時点で電気の元スイッチを遮断する役目をします。すでに「支隊だより」でも述べましたが大地震に伴い発生する火事で原因が特定された60%以上が電気によるものであったと結論しています（阪神淡路、東日本等）。今回の回答は設置「あり」17.7% 「なし」80.4% でした。

「なし」と回答の中で69%の方が設置検討中、または斡旋あれば設置検討するとの回答でした。

防災隊では設置を後押しするため具体的な提案をしていきます。別途斡旋をご連絡します。

項目6 雨水タンク等の設置について：非常時の生活用水確保のための容器の設置済は非常に少ない状況。

項目7 飲用水について：飲用水の備蓄「なし」の方が4.4%ありました。是非備蓄しましょう。

項目8 生活用水の確保について：生活用水を確保するには項目6の様な容器を増やす必要があります。

回答から判断してペットボトルでの生活用水備蓄も多いと思いますが、この方法では十分な量の確保は難しい。生活用水「なし」の回答も52%あった。

項目9 風呂水の溜め置き：この方法は生活用水確保として量的にも有効な手段であり、70%の家庭で実施されていると言う結果が出ました。非常時の生活用水であるとの意識を持ち続ける事が必要です

項目12 簡易トイレについて：被災状況によってはこの件が最も深刻な状況なる事が想定されます。即ち完全下水完備されたこの地区で水道水が止まり、下水管が破損閉塞するとトイレは全く使えなくなり、簡易トイレ（処理袋、凝固剤含む）が頼りとなります。

現在簡易トイレの準備率は50%程度です、前回より上がりませんが100%目標に頑張ります。

2. 質問・要望について次の様な事項ありました

1) 雨水タンクについて教えて頂きたい。

- ・雨水タンクは雨水を溜め置き、日常生活上又は防災用に雑用水として使用できます。
- ・平時は水道代の節約、非常時には貴重な生活用水(雑用水)になります。
- ・容量は100L、200L、種々あり、値段もいろいろ。取り付けは家庭で可能。
- ・町田市には雨水タンクに現在補助金制度はありません。

2) 予備電池はどれくらい必要か？

- ・非常時に使う物（ラジオ、懐中電灯等々）に使用する全種類の電池と各器1セット以上備蓄。

3) 「感震ブレーカー」の防災隊主導による購入が出来るか検討してほしい。

- ・上記「項目5」に記している通り検討する。
- ・この機器は今後、新築家屋には基本設備として装備されますが、既存家屋は任意設置となります。

4) 雨水タンクについても購入斡旋の質問がありましたが、現在は予定していません。

具体的な設置計画がありましたら防災隊に連絡下さればご協力いたします。

*防災活動、防犯パトロールに感謝のお言葉を多数頂きありがとうございます。今年も頑張ります。